

収穫感謝祭

田吾作の餅つき大会



四谷の

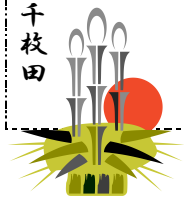
千枚田だより



第76号

本年は大変お世話になりました。来る年も棚田を応援して下さい。皆さんのご多幸を心よりお祈り申しあげます。

四谷の千枚田



十二月六日、田吾作(代表 今泉良治)は恒例の餅つき大会を行った。昨日の時雨模様から得て変わりに、抜けるような青空のもと、都市近郊から訪れた親子連れやリピーターで大賑わいをみせた。

当日は、田吾作が心を込めて栽培した「鈴原糯」をかまどで蒸し、石臼で、つきたての餅を黄粉、大根おろし、また、ちらし寿司、豚汁やイカ焼きなど、参加者に大判振る舞い、師走の一日を都市交流に心地よい雰囲気醸し出した。

獣害対策視察

十一月四日、岐阜県関市藤谷地域保全管理組合は農地・水・環境保全国上活動の取り組みを行っている。特に、減農薬で水稻を作付けして「岐阜クリーン農業」を推進している。藤谷地区は山に囲まれ、イノシシやサル等の鳥獣に農作物を荒らされ苦慮している。

連合・四谷地域は獣害対策に先進的取り組みをされていると聞き、その状況を研修するため、二十五名が訪れた。

研修内容は「既報 千枚田だより」六十七号や新城市文化会館で発表された資料(パワーポイント)を基にイノシシやサルの被害状況・対策についてお話をした。

視察受け入れ 『丸山千枚田』

十一月十八日、棚田保全の大先輩である三重県の丸山千枚田(奥会長)から行政を含め十人が先進地視察と銘打って訪れた。

丸山千枚田の皆さんは過去、十五年超、見学の受け入れやオーナー制度導入など、積極的に活動しているが視察は今回が初めてで、百姓同士の本音を語り合いたいと市鳳来総合支所を介し訪れた。

当方も諸々な問題を抱えながら棚田を守る姿を是非語り合いたいと快諾、地域整備課三名、保存会六名が出迎え、棚田保全の現状と展望に両者、意気投合、よい雰囲気な視察(会合)となった。



丸山千枚田のみなさんと
ふれあい広場にて

礼状(抜粋)

自分たちと同じように、必死に棚田を守ろうとしている保存会の皆さんのお話は、大変共感できるものであり、これから活動していくにあたってとても力を与えていただいたと感じています。

「自分たちの棚田は自分たちの手で必ず守っていくんだ」と言う保存会の皆さんの気持ちがすごく伝わりました。

帰りの車中で、「本当に来てよかった」と皆さん口をそろえておっしゃっていました。きつと頑張ってくださいと思います。

先人が築き上げた貴重な文化遺産を後世に残すべく、地域が一体となつて頑張つてまいります。

これを機会に、情報交換しながら交流を深めていけるような、おつきあいをしていたければ幸いです。このたびは、本当にありがとうございます。

熊野市地域振興課 北裏和樹
当方も一度、お訪ねしたいと思っています。

『桑原地区勉強会』

十二月五日、新城設楽農水事務所建設課を通し、豊田市桑原町(旧稲武町)の桑原地区、行政の皆さんが千枚田に訪れた。その、経緯は「四谷の千枚田を核にした「むらづくり」が世評をあびている、その実態と活動状況を参考に地域の活性化に取り組む手段としての勉強会」と称して訪れた。

地域活性に取り組み地区の皆さんは真剣で、様々な課題に二時間を

超す質疑応答を費やした。功言

・「どんぐりの湯」を核にした「むらづくり」 例：農業体験のあとは「のんびりどんぐりの湯で…」をキャッチフレーズに、蕎麦打ち体験?などをテーマにした都市交流(沼津オーナー制度、貴し野菜畑)。

・「田んぼのオーナー制度導入もオーナーがある程度確保できれば採算は合うが、少ないと持ち出しになる」等々

ふるさと農林水産フェア

十一月二十一日〜二十三日、吹上ホール(名古屋屋市)において出店百六十小間、入場者数三万人超をもつて開催された。



四谷の千枚田は地域活性化を主眼に稲作体験など、都市交流を積極的に行っている。ふるさと農林水産フェアでは、「三河の山里体感プラザ」として会場内にブースを設け、「鞍掛山の恵みを受けた湧き水、天日干しの環境にやさしい棚田米」をキャッチフレーズに出店を開いた。

初日は白米のみの販売を行ったところ「なぜ、湧き水で天日干しの米を精米してしまうのだ。玄米を持ってこい」と複数から声がかかった。我々は、白いごはん、白米に慣れて育った。玄米なんか誰が食べるのだらあ：と思つたが、一応持つて行つてみた。その結果、二日とも短時間で完売。売れ行きは白米より好評でビックリした。

また、東芝さんの好意で白米、玄米を炊き、来館者に試食の結果、食味、食感とも最高の評価を得た。

保存会から高橋孝行、原田英史、松下誠、(舜)が活き活きとした千枚田を充分にPRしてきた。

篤志

寺坂の富ちゃ、うしろ山のしまちや、つやちやの美人姉妹(昔は…)は毎月届く「四谷の千枚田だより」から「ふる里の活き活きとした姿が伺え、とても懐かしく、嬉しい」と千枚田だよりを発行している保存会へ大きな志を頂きました。



行 平成二十一年十二月十五日
鞍掛山麓千枚田保存会
登 文 責 小山舜二